

Special Program Session

Fri. Jul 10, 2026 8:30 AM - 9:30 AM JST | Thu. Jul 9, 2026 11:30 PM - 12:30 AM UTC | Room6 (Room 604)

[SPS] 学会特別企画 (II-SPS)

FALD update

座長:赤木 禎治(心臓病センター榊原病院)

座長:大内 秀雄(国立循環器病研究センター)

II-SPS-4] 若年Fontan患者におけるFALD診断と関連因子

○倉岡 彩子, 鈴木 彩代, 連 翔太, 白水 優光, 郷 清貴, 佐藤 正規, 佐川 浩一 (福岡市立こども病院 循環器科)

Keywords : FALD、Fontan、 γ GTP

【背景】Fontan関連肝疾患(FALD)の診断やリスク因子などに関する知見はまだ十分ではない。

【対象】当院でFontan手術を施行し、2015～2024年に成人移行前の心臓カテーテル検査ならびに腹部超音波検査を行った15歳以上の196例(男114例)。【方法】腹部超音波検査の7項目についてそれぞれ0点/0.5点/1点としてスコア(総計7点)を算出した。(肝辺縁:鋭/やや鈍/鈍、肝表面:平滑/やや不整/不整、内部エコー:均一/やや不均一/不均一、高エコー部位:なし/あり/8mm以上、肝腫大:なし/軽度/あり、脾腫大:なし/軽度/あり、肝静脈拡大:なし/軽度/あり)スコア $\leq$ 1点をL群(125例)、 $\geq$ 1.5点をH群(71例)として臨床データを比較し高スコアの関連因子を検討した。【結果】全対象の検査時年齢は 17.6 ± 1.3 歳、Fontan時年齢 3.6 ± 1.4 歳、術後期間 14.1 ± 1.6 年、EC法195例(開窓2例)/LT法1例、ワーファリン内服は186例(94.9%)で、二群間に有意差はなかった。総手術回数はH群で多く、Norwood手術が多かった(L群:15.1%、H群24.3%)。SpO₂はL群 $95.0 \pm 2.0\%$ 、H群 $94.3 \pm 2.6\%$ 、心肺運動負荷試験での最大酸素摂取量はL群 26.8 ml/kg/min 、H群 24.5 ml/kg/min とL群で高かった。カテーテル検査でのIVC圧はH群で有意に高かった(L: 9.0 ± 1.9 、H: 10.1 ± 2.3)が、体血圧・心拍出量・肺血管抵抗・PA indexには差がなかった。血液検査では γ GTP(L: 58.7 ± 32.4 、H: 81.1 ± 70.3)に加えて、FIB-4・APRI・Forns IndexがH群で高く、PT-INR(L: 1.87 ± 0.48 、H: 1.68 ± 0.36)はL群で高めのコントロールであった。血小板数・ビリルビン・MELD-XI・肝線維化マーカーの有意差はなかった。多変量解析では、IVC圧、 γ GTP、最大酸素摂取量が高スコアに関連する因子であった。【考察】観察期間が同程度の若年対象では、腹部エコー所見にIVC圧と心肺運動機能が影響し、 γ GTPが指標となりえる。また、Fontan術に至るまでの経過もFALD発症に関連している可能性が考えられる。